事業所における児童発達支援自己評価結果（公表）

※ 利 用 実 績 な し ※

討議年月日：令和　　年　　月　　日

公表：令和　　年　　月　　日

事業所名：チャイルドハート小倉アイリス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である				
	2	職員の配置数は適切である				
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている				
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している				
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている				
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している				
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している				
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している				
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている				
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している				

	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している				
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している				
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している				
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している				
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている				
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある				
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している				
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている				
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている				
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている				

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している				
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている				
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している				
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている				
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和6年1月31日

公表：令和6年2月15日　　事業所名：チャイルドハート小倉アイリス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		学習室を設け、遊ぶ児童と学習をする児童を分けてスペースが狭くならないようにしている。 ･机の配置、学習室等の有効活用。	・学習室を設け、遊ぶ児童と学習をする児童を分けてスペースが狭くならないようにしている。 ・机の配置、学習室等の有効活用。
	2	職員の配置数は適切である	8		偏った支援にならないような配置としている。	スタッフ配置を4～５人態勢としている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	スタッフ間の声掛けを密に行い、安全に利用できるようにしている。	・完全なバリアフリーではないが、段差はほとんどない。 ・トイレの入り口が狭い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8		振り返りに関しては十分に議論され、改善に向かうように話し合っている。	スタッフ全員が参画できるようにする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		スタッフ全員に周知行い、いつでも意見を発表できる体制を整える。	業務改善につながるような話し合いの場を設定し、意識しながら支援を行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		周知行う。	ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5	児発管からの情報発信を密に行う。	・フランチャイズ本部による定期的な評価が行われている。 ・全スタッフに評価体制の仕組みを説明する必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		スタッフに負担をかけないよう複数回に分けて研修を行うことがある。	・外部研修・本部研修・内部研修の機会を積極的に取り入れて、参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		情報発信を密に行い、全スタッフが情報共有できるように意識している。	今後も細やかな話し合いを続ける。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	情報発信と知識を得る工夫を行う。	社内研修行い、詳細な内容を全スタッフに伝達していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		様々に意見を出せるように、常にオープンな雰囲気と環境を整える。	利用者が楽しめるようなプログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		アイデアを取り入れ、意見を交換しながら、実践する。	集団活動では毎日、様々なミニゲームを取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		早めに計画をたてる。いつでも話せる環境を整える。	・課題を明確に伝えている。 ・イベントを設定して計画している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8		検証を行い、次につなげている。	毎日の活動に集団活動を取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		役割分担表を活用している。	・職員同士の連携が密である。 ・スタッフと児童のグループを決めて、役割を分けている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	8		報告や意見発信を促し、習慣となるように声掛けしている。	・スケジュールの記録を残し、次年度に活かしている。 ・児童の様子などを細かく共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		全員が記録できるような体制作りとしている。	・毎日の支援を振り返って支援記録を作成している。 ・日々検証行い、改善案を話し合っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1	話し合いの中から情報を取り出せるよ言うに意識している。	・定期的ではない。 ・全スタッフに周知する。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	8		ガイドラインをスタッフに配布し、理解を促している。	・常に意識しながら支援に関わるようにスタッフの教育を行う。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		情報共有を常に行っている。	児発管が参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8		・LINEを活用して、迅速に対応できるようにしている。 ・緊急時の連絡は児発管に行うなど、連絡先を明確に分けている。	・下校時間等、変更があれば連絡を取り合っている。 ・各学校によって情報提供に差があり、画一的な方法が課題。 ・保護者様に確認したり、担任の先生に確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	7	利用児童の状況をわかりやすく伝達行う。	・医療的ケアが必要な子どもの受け入れはない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8		該当事例が発生した場合は、全スタッフに情報共有できるような体制を構築する。	数年利用なし。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	7	該当事例が発生した場合は、全スタッフに情報共有できるような体制を構築する。	事例、未だなし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	4	情報収集に努めている。	研修等の開催があれば参加するようにしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	3	スタッフそれぞれが情報収集行い、意見交換を活発にできるような環境を整える。	地域の大学のイベントに参加し、交流の機会をつくった。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	6	情報収集を行う。	現在、積極的な活動は行っていないが、研修等の案内があれば参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		スタッフ間で情報共有行う。保護者様への連絡事項は児発管発信とした上で、共通認識とする。	連絡帳や送迎時に保護者様に児童の様子などを話して、意見を共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	8		なぜペアレント・トレーニングなのかをスタッフに説明行い、理解が深まるようにしている。	児童の様子を観察しながら、必要と思われる情報と対処方法等をお伝えしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		わかりやすい表現を心掛けている。	今後も続けていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		保護者様と全スタッフが関われるような環境を整え、情報を得やすい環境を意識している。	・全スタッフが情報共有を意識して支援を行っている。 ・児発管への報告を緊密に行い、即座に対応できるような体制を意識している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	6	細やかな情報収集を心掛けている。	・保護者会等の開催予定はない。 ・開催は希望しない。とのご意見をいただいており、慎重な対応が必要と考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		全スタッフに、苦情は事業所にとって大切な情報である事を伝え、迅速に事実を報告することが重要だと日頃から話している。	・関係事業所や相談支援員と情報の共有を図り、適切に対応するようにしている。 ・日頃からスタッフ間で情報を共有し、児発管が中心となり、迅速かつ的確に対応できる体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		広報誌のレイアウト・ブログ等の掲載写真の感想をスタッフがお互いに意見交換する機会をつくっている。	ブログや広報誌にて、日々の活動や行事予定を発進している。
	35	個人情報に十分注意している	8		個人情報の定義と守秘義務の重要性を常に話している。	・書類等は鍵付きのキャビネット（表から見えない）に収納。 ・日頃から職員に守秘義務について指導を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	2	障がい特性の知識や保護者様とのやり取りの内容をスタッフ間で共有し、配慮の方法を話し合っている。	公式LINEや独自の通所システムツールの活用等。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3	アイデアを出し合い、活発な意見交換ができる環境を整えている。	・一部の地域住民の方を年末の行事に招待。 ・広く参加を呼び掛けるためには、検討が必要。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		保管場所をわかりやすく伝えている。	今後も続けていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		スタッフと事前に打ち合わせ行い、役割分担を明確にしている。	大雨による洪水を想定した避難訓練や、地元消防団の協力を仰ぎ、消火器を使用した訓練を行った。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		全スタッフが日頃から虐待について話題にしている。	・年に２回虐待防止委員会を開催している。 ・今後は委員会の回数を増やし、研修を充実させていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2	全スタッフに、重要な内容である事を日常的に話し、具体的な内容を伝えている。	・身体拘束が必要となる事例は今のところ:発生していない。 ・研修等を通し、スタッフの知識を深めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	児童の情報共有を図っている。	保護者様からの情報をもとに、食物アレルギーに注意している。医師の指示書に基づく利用者はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		ヒヤリハットであると認識することが重要だと伝えている。	ヒヤリハットを確認した際、内容を共有し改善案を考えている。